

## 書籍のご紹介

## 【遺伝子関連検査 検体品質管理マニュアル】

発行：特定非営利活動法人 日本臨床検査標準協議会



制作・購入問合せ先：

有限会社 学術広告社

電話：03-3816-7678

価格：本体1,500円＋税

遺伝子技術が臨床検査の分野に導入され20余年が経過し、悪性腫瘍や代謝疾患など多くの疾患の診断に広く利用されている。しかしながら、検査対象とするDNAやRNAは不安定な分子であるため、検体の採取法から核酸抽出して検査に至る過程が不適切な場合は一定の結果が得られない。尿、血液、喀痰、髄液、組織と多彩な臨床材料には検査目的の細胞以外の成分も多いこと、また採取から検体提出までに検体組織に含まれる消化酵素により目的の核酸が分解してしまうなど様々な不安定要素がある。遺伝子検査を施行している検査室においては、ひとたび検体を受け取ったあとは、それぞれ最善の方法で検体を処理して検査に供しているのだが、検体採取から受け取るまでの過程を検証するすべを持たないため、絶対の確信をもって報告できない場合もある。

今回、JCCLS日本臨床検査標準協議会から発行された遺伝子検査の標準化を目指した“遺伝子関連検査 検体品質管理マニュアル”は、まさに遺伝子検査室で待たれていたプロトコール集である。本書には、実際の臨床現場で実行可能な遺伝子検査検体の採取・保管・運搬法、およびトラブルシ

ューティングが具体的に示されている。なお、平成21年度から、高度先進医療における遺伝子検査は、本書に準拠することがその要件とされた。遺伝子検査室で本書を活用して、自身の行っている検査プロセスを振り返り確認することで、臨床における遺伝子検査の信頼度が増すことが期待される。

(昭和大学医学部 臨床病理学教室 教授 福地邦彦)

**JCCLS日本臨床検査標準協議会**：臨床検査の普及や質の向上を目指して、米国の同様な団体(CLSI、旧NCCLS)をモデルとして、関連する医学会、行政(厚労省、政府系機関)、産業界(臨床検査関連企業)の代表者を役員に迎え活動している団体である。現在本協議会の傘下で多くの委員会が活動しており、ここで策定された文書は臨床検査分野でガイドラインや場合によっては国の指針として活用されるなど、極めて重要な役割を担っている。また、最近ではISOやJCTLMといった国際会議への参加も多くなり、国際的な取組みや国内への対応など新たな役割も期待されている。

URL <http://www.jccls.org/>